マイブランド野菜を作ろう！

8月

菜園くらぶ

監修／帖地　近行

ダイコン

【アブラナ科・地中海地域、中東原産】

姿形や栽培時期の違うさまざまな品種があり、品種を選ぶと1年中作ることができます。初秋から秋まきが作りやすく、質の良いものが取れます。

用意するもの（1㎡当たり）

■種子　■苦土石灰100g　■元肥（完熟堆肥2kg、化成肥料50～100g）　■追肥（1回当たり）化成肥料10～15g（1/3～1/2握り：1株当たり）　■敷きわらや枯れ草（時期による）

※追肥用の化成肥料は10：10：10のタイプ、元肥用は窒素分よりリン酸、カリ分の多いものを使う

栽培カレンダー

栽培手順

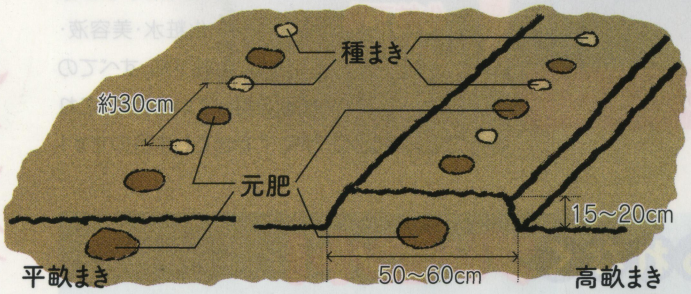
❶種まき

種まきの2週間前までに苦土石灰を全面に散布し、よく耕しておく。

1週間後、深さ10～15cmの溝を掘り元肥を施し、土とよくまぜておく。元肥は種をまく位置の真下にならないように、株間に施す。水はけのいい場所では平畝（うね）でいいが、水はけが悪いところは高畝にする。

1週間後、株間30cmぐらいで1カ所に数粒種をまき1cmほど土を被せて軽く押さえる。

発芽するまで、乾燥させないように注意する。わらや枯れ草などをかけておくとよい。



❷管理

○間引き…間引きが重要。1回目は双葉が開いたときに、3～4本立ちにする（きれいなハート形のものを残す）。2回目は本葉2～3枚の時に2本立ちにする。3回目は本葉6～7枚の時に1本立ちにする（生育が進み過ぎたもの、遅れているもの、葉の形の悪いもの、病害を受けたものなどを間引く）。

○追肥…2回目の間引きの後に化成肥料をひとつまみほど、畝の肩部に株から離して施す。最初は畝の片側に、次は反対側にと交互に施す。

○土寄せ…間引きの後、軽く株元に土寄せする。1本立ちにしてからは追肥をした後に十分土寄せする。

※秋まきは高温で乾燥しやすいので畝に敷きわらや枯れ草を敷くとよい。

❸収穫

品種によるが、根茎が7～8cmほどを目安に収穫する。春取り、夏取りは「ス」が入りやすいので早めに収穫する。

＊ポイント＊

- 深く、よく耕す。
- 日当たりと排水の良い場所に植える。
- 石や土のかたまり、前の作物の根や残渣（ざんさ）がない場所に植える。
- 草木灰を追肥に使うと効果的。
- 品種により株間を増減する。